

能楽囃子「隅田川」カケリの楽譜化と その特徴について

渡辺 康 飯塚恵理人

1. はじめに

能の囃子は、西洋音楽と異なり、時間的に伸縮することが多い。これはシテ（主役）の所作に限定されることもあるが、「楽譜」にそった演奏をすることを最初から意図していない、西洋音楽と全く異なった構造を持つ「音楽」であることによる。しかしながら、同じ名称を持つ曲は、全く時間的な「長さ」や、小鼓・大鼓の「手組」が異なっても、能の愛好者が聞くと「同じ曲」に聞こえる。音楽において、「同じ曲」とはどのような範囲を指すのか、それをこの「隅田川」のカケリの笛に注目し、その旋律を楽譜化して示すことによって考えて見たい。

2. 「隅田川」のカケリ

「カケリ」の定義を横道万里雄氏の『能の囃子事』によって挙げると「武士の霊や狂女などが、興奮状態を示す働事。大小物。鼓地物。途中で急激な速度の変化のあるのが特色である。従来の用語法では「カケリ」の概念があいまいで、他の働事、特に86イロエ、87切組ミ、88立回りと相互に混同して名称を使用しているが、本書では、右のようなカケリ、すなわち、いわゆる本ガケリに限定した。」と説明されている。横道氏により、「楽式」を上げると、

⑦正式 段数一段。左表は打楽器に基づく構造。

- 1 カカリノ段 カカリ一地(句数見計ライ)
一カケリ頭
- 2 初段目 (カケリ頭のつづき) 一地 (句数見計ライ) 一地頭一トメ

となる。同じ曲で特徴をみたかったために、「隅田川」に限定した。「隅田川」におけるカケリの演奏される部分は、シテの物狂いとなった梅若の母が登場する部分で、一セイの「聞くやいかに 上の空なる風だにも まつに音する慣らひあり」の後から、「真葛が原の露の世に 身を恨みてや明け暮れん」の前までである。

対象とした演奏のシテと囃子方の組み合わせは下記の通りである。

演奏1 シテ 金春流 笛 藤田流 小鼓 幸清流 大鼓 大倉流 (2分7秒)

演奏2 シテ 喜多流 笛 藤田流 小鼓 幸清流 大鼓 大倉流 (1分55分)

演奏3 シテ 観世流 笛 藤田流 小鼓 幸清流 大鼓 石井流 (2分7秒)

演奏4 シテ 観世流 笛 森田流 小鼓 幸流 大鼓 大倉流 (2分19秒)

いずれも名古屋能楽堂での公演である。なお、演奏4が森田流であるのを除き、他の3演奏は全て藤田流であるが、3演奏とも出演者は異なる。以下、楽譜を参考に、西洋音楽と比較しての特徴について述べてゆきたい。

3. カケリの西洋音楽の立場から見た 楽曲分析による、同一性について

文章の段落構造にあたる楽式構造と、さらに細分化した楽節および動機（文章では文節・単語）の構造分析によって、演奏1、演奏2、演奏3、演奏4の西洋音楽の見地にたった楽曲分析手法により調べ、4曲のカケリが同一の構成を取ることを論証し、4曲が同一曲である根拠を示す。

楽式構造

すべての曲で、A ゆったりと、B 速く、C ゆったりと、D 速くの4部構成である。AとCでは拍節感が弱く、BとDでは4拍子のはっきりとしたリズムを感じることができる。2分強の長さを持っていて、4部分の時間比も、ほぼ4：1：4：2である。

A部分の分析

4曲ともにA-1、A-2、A-3の3つの小楽節が1つの大楽節を構成している。

A-1の分析 演奏2では、下からの修飾音を伴った、長い音の動機aが現れて3回繰り返される。その3回めに、長3度下降して短い音が繋がる。これをa+bとする。するとa, a, a+bとなる。演奏3も、記譜では修飾音の若干の違いを表して異なっているが、同じ構造のa, a, a+bの構造である。演奏1はaが一回のみであるが、その音がきわめて長く引き延ばされて、その印象は、a+aである。さらにa+bが続いているので、前2曲と同じ曲に感じられる。演奏4は、修飾音が長くて穏やかであって、もはや修飾音とは感じられないほどに長い音ではあるが、前曲との類似性は十分といえる。最後の動機がa+bではなく、a+aだが、二つの動機の連続とは感じられないのは、一息のフレーズ感が強いからである。

A-2の分析 後半の部分、演奏2は長い音符に続

いて、長2度上の装飾音がついた短い音が繋がる。それをcとする。演奏3は同様である。演奏4と演奏1は最初の長い音に当たる部分に動きがある。しかし演奏2と3でも、長い音に音程の揺れがあるので、演奏者の意識は4奏者ともに同様のものと考えられる。

A-3の分析 演奏2と3では、cの結尾部分の拡大ととれるdが現れて、次にそのdの逆行に装飾音符のついたeがつづく形である。演奏1はdにeの装飾音符が省かれた形のe'、それに続いてeが現れる。演奏4は前3曲と動機採用の回数と同じだが、形が違っている。すなわちfは、cの結尾ではなく開始の部分の拡大になっている。fの修飾変形であるgにつづいてgの省略形のg'が置かれる。したがって4曲ともに関係性の深い動機が同じ数繋がっていると分析できる。

4. B部分の分析

この部分は4曲ともにテンポが速くなり、4拍子の拍節が、太鼓類によって示される4小節の明快な性質を持つ楽節である。演奏2、演奏3、演奏1では、そのhの動機は、ラーシラソの旋律がほぼ同じリズムで表れるのがはっきりとしている。つづくiは、hの冒頭部分を拡大した形である。演奏4は旋律においても、リズムにおいても、他の3曲を抽象化した形をしているが、h+iの基本的な構造を維持している。

5. C部分の分析

再びゆっくりとした、抽象的な拍節感の部分である。C-1、C-2、C-3の3つの小楽節が1つの大楽節を構成している。

C-1の分析 ファーソのeが2回表れて、4度下がって長い音となる。これは演奏2と3と演奏

1が同一の形である。演奏4では、下からの修飾音符を伴ったk、lが表れるが、前3曲の動機とはかなり異なっている。ただテンポ感と表れる回数とタイミングが前3曲と同じであるために、同じような印象を受ける。また、このlが、次のC-2の部分になだれ込むように接続するのも、演奏4の特徴である。

c-2の分析 演奏2と3は修飾音から始まる長い音eのあとに、修飾音が下降するmが表れ、3回切迫しながら繰り返される。そして4回目には、グリッサンドを伴いながら3度下降する。演奏1は、切迫するmが一回少ない2回である。対して演奏4は、eに似たlがゆっくり4回繰り返される。この部分は演奏4は他と異なる構造である。

c-3の分析 4曲とも、この部分は同音が2回ないし3回繰り返されて半音下がって長い音になるという、結尾の部分と考えられる。これをnとする。

6. D部分の分析

再びテンポが上がる。B部分と同じ速さとなる。太鼓による明確な拍節感があるが、Bのような4拍子感と小節を感じさせる進行ではない、抽象的な旋律と楽節構造である。4曲ともに強い性格を持つ動機がなく、一息の旋律構造を持っている。D-1に対して、D-2が低い音域になり終始する。演奏2,3は非常に似ている。また演奏1は、抽象的ではあるが一息に同じ旋律を奏する。演奏4も違いはあるがD-1に対するD-2の音域のあり方が他の曲と同一であることが認められる。以上のように、楽節構造や動機の扱いの点で、演奏2と3は全く同じ構造であり、演奏1が近似であって、演奏4は他の3曲の、基本的な骨組みを維持した上で、抽象化している様な曲であると分析できる。

7. まとめ

以上、「隅田川」のカケリの特徴について、笛のみを基準に考察してきた。結果的には西洋音楽の立場においても、同一曲とみなし得るというある意味穏当な結果となる。大鼓・小鼓の手組は三演奏とも全く異なるので、これを加えた時に音楽としてどのような特徴を持つのかについて今後の課題としたい。同一性ととも、演奏ごとに異なる表情をみせる囃子の魅力に迫りたい。

謝辞

本研究は、平成17年度サウンド技術振興財団助成、平成17年度科学研究費助成基盤研究(C)による成果の一部となります。記して感謝申し上げます。

注

注1 『能の囃子事』東洋音楽選書4 東洋音楽学会編 音楽之友社 1990年5月 p. 428-429

わたなべ・こう/名古屋音楽大学非常勤講師
E-mail:kou-wata@sf6.so-net.ne.jp
いづか・えりと/文化情報学部助教授
E-mail:erito@ci.sugiyama-u.ac.jp

カケリ

A

ゆったりと

A-1

演奏1

演奏2

演奏3

演奏4

A-2

演奏1

演奏2

演奏3

演奏4

A-3

演奏1

演奏2

演奏3

演奏4

B

速<

速<

速<

速<

Musical score for measures 11-14, featuring four staves labeled 演奏1, 演奏2, 演奏3, and 演奏4. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings. A box labeled 'C' is present above the fourth measure. The Japanese text 'ゆったりと' (yūttarito) is written above the notes in the fourth measure. Fingerings 'i', 'j', and 'k' are indicated above specific notes. A 'rit.' (ritardando) marking is present above the second and third measures.

Musical score for measures 15-18, featuring four staves labeled 演奏1, 演奏2, 演奏3, and 演奏4. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings. Fingerings 'e' and 'm' are indicated above notes in measures 15, 16, and 17. A 'rit.' (ritardando) marking is present above the first measure of this system.

Musical score for measures 19-22, featuring four staves labeled 演奏1, 演奏2, 演奏3, and 演奏4. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings. Fingerings 'n' and 'n'' are indicated above notes in measures 19, 20, 21, and 22. A 'rit.' (ritardando) marking is present above the first measure of this system.

D D-1

演奏1
演奏2
演奏3
演奏4

D-2

演奏1
演奏2
演奏3
演奏4